

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A)

事業所番号	0670700426		
法人名	医療法人社団みつわ会		
事業所名	グループホームひだまりの家		
所在地	山形県鶴岡市茅原町27番1号		
自己評価作成日	平成30年 8月24日	開設年月日	平成12年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人は、同一法人の診療所、老人保健施設と連携し「保健・医療」「リハビリテーション」「栄養管理」等の専門スタッフのサポートを受け、ご利用者の心身機能の改善、維持に努めている。特に、重度化する傾向にあるご利用者には訪問診療により、健康管理の保持に努めている。また、医療連携体制では看護師との連携による、24時間支援体制を構築している。一方、外出支援等では、外食、買い物、季節が感じられるようなバスハイクを実施している。また、ご利用者の誕生日当日の誕生会や4ユニットの特長を活かし、ユニット間交流により、多くのご利用者が交流できるよう各種季節行事や地域行事の開催や法人合同夏祭等では近隣の方々にも参加を呼びかけ、地域に開かれた施設運営を心がけている。また、制止しないで入居者の思いを尊重したケア、事故防止等の為の過剰なケアで自立支援を妨げない取り組みに徹し、家事活動に力を入れるなど、安心・安楽した日常生活を送っていただけるよう支援することをモットーに、認知症の進行を緩和させるケアを心がけている。Aユニットは介護度や身体能力に差がある利用者様もいるが、調理の下準備や洗濯物干し・畳みなどの家事活動や集団でのレクリエーション活動に積極的・意欲的に参加される方が多い。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 10月 17日	評価結果決定日	平成 30年 11月 2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

クリニックを母体として各種施設が並ぶ中でグループホームとして4ユニットを備え、管理者と職員は利用者一人ひとりの思いを尊重し、心身の状況や希望を踏まえて可能な限り自立した生活ができるように支援しています。利用者は24時間対応可能な医療体制と家庭的な環境の下で穏やかな生活を送り、ユニット間で交流する行事を多く作って楽しむなど、温かい雰囲気の中でゆったりとした時間を過ごしています。外出支援を通じて住み慣れた地域での生活と、地域で行われる行事にも参加してコミュニケーションを図りながら地域に開かれた運営を目指している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念(職員の心得)を基本とし、年度事業計画に「基本方針」・「運営方針および処遇目標」を掲げ、これらの目標が達成できるよう日々精進している。また、理念の共有が図られるよう、今年度の目標である「チャレンジで飛躍」を朝礼で唱和し、実践努力している。	法人の理念と事業所としての目標を掲げ、職員も自分自身のケア目標を立てて成果を確認し、フォーラム等で自分の思いを発表するなど、更なる飛躍を目指している。利用者の思いを尊重して丁寧に対応し、精励する姿が利用者・家族の信頼関係を築いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方々とは、日常のあいさつを交わす中で、コミュニケーションを取りながら地域との繋がりを持つようにしている。また、法人合同夏祭では、地域の方々と交流を図っている。	利用者は散歩や買い物の途中で行き交う人と挨拶したり、子どもの遊ぶ姿を見て微笑んでいる。季節ごとに行われる様々な行事や祭りなどで地域の一員として交流し、恵まれた環境の中で元気に過ごしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の介護体験学習・看護学生の高齢者介護学習の場の提供、専門学生のボランティアの受け入れを通じ認知症への理解を深めているとともに、地域の人々への認知症の理解と支援方法のあり方を理解していただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの定期的開催し、アクシデント報告やその対応策について報告し、会議の参加者から意見を頂いている。また、ユニット担当職員が入居者の日常や余暇活動、生活の様子を報告するとともに、写真を掲示し、視覚的な報告も行っている。	運営推進会議の開催については通所利用者も併せて家族全員に案内を送付し、多くの参加者の中で実施されている。事業経過や生活の様子を報告し、参加者からの意見を真摯に受け止め、悩みごとの相談にも応じて双方向的関係の中で行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鶴岡市介護保険事業者連絡協議会を通じ市役所職員との交流や地域密着型施設部会での情報交換を行い連携を取っている。さらに介護相談員の月1回訪問活動による連携、運営推進会議へ担当者の参加を頂き、情報交換を行い協力関係を築きながらサービス向上に繋げている。	市担当者から各種の会合などで情報をもらい、運営推進会議を通して介護の現場に理解を得て事業所運営に繋げている。介護相談員の受け入れにより、利用者との会話の中から環境面や職員の仕事について率直な意見を聞き、サービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人全体研修会、事業所内研修会において、身体拘束となる具体的な行為の理解また、廃止に向けた取り組みについては、利用者個々の意向に沿った援助を行うことにより実践している。また、定例のユニットリーダー会議において、身体拘束につながる状況や行為がないかお互いが確認し合っている。ユニット玄関の施錠については、日中は解放(07:00～19:00)し、自動ドアはタッチスイッチにより、自由に開閉できるようになっている。	研修を通じて身体拘束のない支援が行われている。利用者を抑制しないよう丁寧な対応で支援し、「身体拘束ゼロ委員会」を設けて確認し、職員間でも行動を確認しながら共通認識の下で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント研修、マナー研修、高齢者介護に携わる者の心構えと法令順守研修、認知症ケア研修等法人および事業所内の学習会を通じ高齢者虐待防止について学習している。また、定例のユニットリーダー会議において虐待につながる行為や状況がないか情報交換し、虐待の早期発見・防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加により、制度の理解を深めているとともに、権利擁護を活用している入居者については、ユニットリーダー、介護支援専門員を中心に社会福祉協議会や成年後見人との連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約にあたっては、管理責任者、介護支援専門員が契約書、重要事項説明書、運営規定、苦情解決規定、集団生活でのリスクなどを懇切丁寧に説明し、同意を頂いている。また、制度改定等があった場合は、文書による説明や家族会等を開催し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設置し、書面により、利用者、家族、面会者等から要望・意見を頂くようにしている。また、口頭の要望意見についても、苦情と同様の取り扱いを行い、ユニット内で解決を図るとともに、ユニットリーダー会議で情報共有し、事業所全体で解決を図るよう努力している。	利用者・家族等との関わりの中で、気軽に意見や要望を出せるように雰囲気づくりに努めている。利用者や家族が発する些細なことでも丁寧に対応し、職員が共通した理解の下で業務に反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・ユニットリーダー会議、ひだまりの家全体会議において、管理運営についての意見・提案を抽出する場を設けているとともに毎朝のホーム内朝礼・申し送り時に意見の抽出を行い、業務に反映させるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回人事考課を実施し、昇格、昇進、給与の見直しに反映させている。また、介護休暇、育児休暇の取得には最大限配慮している。有給休暇のほか夏休み2日は完全に取得できるよう勤務調整しているとともに、勤務シフト作成にあたっては、全職員の休暇希望、勤務希望を提出させ、ほぼ希望どおりの勤務シフトを作成している。</p>			
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職員・異動職員については、プリセプター制度により、マンツーマンの指導体制をとっている。介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得に向けた勉強会を法人内で開催している。また、法人全体で毎月1回の研修会を実施するほか、行政、各種協会等が主催する勉強会に参加し、知識と技術の研鑽を積んでいる。</p>	<p>法人主体で人材の育成とケア技術の向上に努め、職員も内外の研修を通じて研鑽を積みそれぞれが資格取得に向けて励んでいる。福利厚生充実と各種手当の支給により職員のモチベーションが高まっている。</p>		
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>県GH連絡協議会、庄内地区GH連絡会による研修会へ積極的に参加している。また、他事業所との交換実習の受け入れや派遣を行いネットワークづくりを行っている。認知症キャラバンメイト養成研修にも参加し、同業者とのネットワークづくりに努力している。</p>	<p>県の協議会や庄内地区の連絡会などに参加し、共に介護現場で働く者として情報交換を行っている。利用者の症状に関わる対応方法などを確認し、サービス向上を図っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前の診療情報提供書、利用調査票、申込時の情報等を整理し、ユニット内で情報共有している。その上で、受け入れ体制を整え、本人、家族を交えたコミュニケーションの場をつくりながら信頼関係を構築する努力をしている。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前の診療情報提供書、利用調査票、申込時の情報等をもとに、ホームでのサービス提供内容を丁寧に説明し、ご家族の要望を可能な限り受け入れ、ご利用者が、安心安楽した生活が送れるよう努力している。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>暫定ケアプランの作成により、必要とする支援をご家族、計画作成担当者、介護支援専門員、主治医、看護師等と協議を進めながら対応に努めている。また、法人内の他の施設サービス、居宅サービスを紹介し、包括的な対応を行っていくよう実践している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員が共同で行う作業を通し、ご利用者の経験や生活の知恵を教えてください、暮らしを共にする関係づくりを実践している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での状況報告、個人別1か月の生活状況報告(ひだまり通信)を通じ、利用者情報を共有し、ご家族と協調しながら支え合う関係づくりに努力している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サービス計画や事前の利用者情報をもとに、家族の協力を得ながら行き付けの理美容院、かかり付けの医院、友人の積極的な面会を促すなどの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士の会話に職員が積極的に入るなどして、利用者間に職員が介在し、関係性を保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院に伴い契約が終了する場合や在宅に戻られた場合であっても、家族からの相談により再入居や、身体状況に応じて、他のサービスの紹介を行うなどの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前の調査や利用調査票・サービス計画をもとに、利用者の要望等の吸い上げを図っている。アセスメントの実施・毎月のモニタリング、日々のミーティングにおいても、利用者の思いや暮らし方について、共通認識のもとサービス提供に繋げている。	言葉と表情や行動などから一人ひとりの思いや意向を把握し、職員間で共有している。目線を合わせて話しかけ、心身の安定と利用者が持つ能力で自立した生活を送ることができるように実施状況や達成度・サービスの満足度・今後の方針などを検討し、「モニタリング表」に記載して包括的支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用調査票や家族からの聞き取り行うとともに、入居以前の担当していた介護支援専門員に確認を行うよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルの確認を行い、検温板への記入や、日常的变化や過ごし方を生活記録に記載し、把握につとめている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、特に変化がなければ3か月に1回は、サービス計画書の見直しとカンファレンスを実施している。また、サービスの内容についても、毎月モニタリングを実施している。	利用者の状態を把握し、必要に応じて随時サービス内容の見直しが行われている。利用者自身でできることを継続し、必要とされる部分を盛り込んで、本人・家族が望む最善のケアを目標として計画を作成している。	家族の中にはケアプランについて詳しい内容説明を希望する人もおり、家族の思いも種々あり、丁寧に対応されることを期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日バイタルの確認を行い、検温板への記入や、日常的变化や過ごし方を生活記録に、記載するようにしている。また、日常の些細な変化に対しても申し送り記録を活用し職員間で情報共有している。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人クラブ主催の文化祭への参加、ボランティア団体主催の歌謡ショーへの参加、周辺のレストラン、食堂へ出かけ外食をするなど、豊かな暮らしを楽しむ支援を心がけている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を継続し、本人や家族の意見を重視し、家族が受診に付き添えない場合、職員が送迎、通院介助を行っている。	かかりつけ医を本人や家族の希望で入居時に母体のクリニックに変更する方が多く、その場合受診時の付き添いは職員が行っている。通院が困難な方の往診や歯科医の訪問診療、常勤の看護師配置など医療体制を整え、利用者や家族の安心に繋げている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人の診療所(茅原クリニック)か協力医療機関であり、老人保健施設老健(のぞみの園)とも連携し、日常的な健康管理はもとより、看護師との24時間連携体制を構築し、適切な診療、看護が受けられるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中、家族や入院されている医療機関に対して、電話や面談にて状況の確認を行っている。特に医療機関への状況確認は、介護支援専門員が担当し、ホーム内への円滑な情報提供ができるようにしている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合、医療面については、協力医療機関となる茅原クリニックと連携し、症状により、医師との病状説明の機会を設定し、その後の対応について、方針を検討する支援を行っている。</p>	<p>重度化し入浴が困難になったり医療措置が必要になった場合、法人内で構成する「連絡会議」でその後の対応について検討している。家族と話し合い利用者の状況に合わせて法人内他施設の利用なども考慮し、最期まで最適な環境で暮らせるよう法人全体で支援している。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人全職員対象にした、心肺蘇生訓練・AED操作訓練の研修を消防署職員指導の下、実技を中心とした実践的な訓練を年2回定期的に行っている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練は年2回実施、避難誘導、初期消火、通報連絡訓練を実践的に行っている。また、大規模地震を想定した、初動対応訓練を法人全体が連携して行っている。地域との連携では、隣接する山田薬局職員の協力や近隣住民への参加を呼びかけて行っている。</p>	<p>消防署指導の下に訓練を行い、災害時に職員がとるべき行動を確認している。法人主導の災害対応と近隣の他介護施設の協力による対応行動の確認などを実施し、協力体制が構築されている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>「職員の心得」を基本に、利用者一人ひとりを尊重し尊厳を損なわないよう、言動に注意を払いケアを実施している。</p>	<p>日々の会話や家族からの情報を基に、一人ひとりの得意な事を把握し尊重している。利用者ができることを職員も教わりながら一緒に行い、役に立つ喜びを感じ誇りに思ってもらえるようにしている。</p>		

山形県 医療法人社団みつわ会 認知症対応型共同生活介護 グループホームひだまりの家（ Aユニット ）

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護支援を行う前は、声掛けを行い本人の同意を得てから行うようにしている。また、本人の希望が表出し易いように、ジェスチャー等により、対応している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、ご本人のペースを大切にし、ご本人の気分、体調に合わせた暮らしができるよう支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝を中心に、身だしなみを整え、更衣の際には、本人が着用したい服を本人へ確認してから行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々が行える作業を把握し、出来る限り、その有する能力を継続できるように、利用者と共に、準備や片づけを行っている。	管理栄養士の献立で、利用者を手伝ってもらいながら職員が調理している。プランターで利用者が栽培した野菜を使ったり誕生会にはリクエストメニューを取り入れ、外食の機会を出来るだけ多くするなど、話題や変化に富んだ食事で喜ばれている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成し、計画上の栄養管理を行い、ユニットにおいては、食された食事量、水分摂取量を毎時確認し、記録する。これを基に、茅原クリニックと協働で健康管理、栄養管理を行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後、うがいの実施及びブラッシングを行い、口腔衛生、清潔保持に努めている。異常時には、協力歯科医療機関(毛呂歯科医院)から指導を仰ぎ、必要に応じ歯科受診を行い、口腔状態の維持管理ができるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを調査し、その利用者に適した排泄用具、時間的誘導を、ユニット内職員全員で検討し実行している。	一人ひとりのパターンを把握し、時間や様子を見ながら声がけしトイレでの排泄を大切にしている。一人ひとりに最適な排泄用品を選択し、状況に合わせて夜間はポータブルトイレを使用するなど不快感なく過ごせるように支援している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に便秘解消を目指し、トイレへの誘導時間や運動や水分量への配慮、また状態に応じては医療機関と連携し繊維質のサプリメントなどを取り入れ、便秘の改善に取り組んでいる。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の拒否に対する対応や、利用者の体調面を考慮しながら、本人の状態にあわせた入浴ができるように対応している。最低週2回の入浴時間は確保できるようにしている。重度のご利用者にはリフト浴で対応している。	安全に入浴してもらうためにリフト浴や2人介助をしている。拒否をする方には無理強いせず、散歩と称したり職員を交代し対応を工夫して入ってもらっている。浴室では会話も弾み、入浴後には「気持ちよかった」の声が聞かれている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中での個人の状態にあわせ、休息時間を計画的に促したり、足浴などを行いリラックスし入眠できるよう支援している。利用者の入眠時間を把握し個別に対応している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「服薬管理マニュアル」に添って、確実に服薬できるように支援している。また、協力医療機関並びに医療連携体制のもとで、看護師との連携により症状変化の把握につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に楽しみや役割をサービス計画に盛り込めるようにしてる。バスハイクなどの外出支援により、気分転換が図られるよう努力している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の身体状況に配慮しつつ、希望に沿えるよう戸外での園芸活動(プランターや花壇)で日常的に近所の散歩など外出支援ができるようにしている。また事業所の車両を活用し、バスハイクや外食行事なども多く計画し、家族の参加も呼びかけて実施している。	花見や新緑の名所にバスでハイキングに出かけたり、天気の良い日の散歩などで季節を感じてもらい気分転換をしている。おやつを食べながらのドライブや外食は特に喜ばれ、食欲を刺激し元気の元となっている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の認知度等を考慮しながら、自己責任の下、少額の金銭を所持できるようにしている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙が来た場合など、一言でも返事が出来るように試みる。正月には、家族にあて年賀状を書いて頂いている。電話は、ホーム内の電話を活用して頂いている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に装飾物を手作りしたり、行事や家事活動等の写真を飾り、日々の活動記憶を振り返ることができる工夫をしている。また、季節に応じた塗り絵や飾りつけを行い、ユニット内に掲示し、季節感を出している。食堂ホールや居室の温度湿度管理については、ご利用者の状態に合わせ細目に温度管理している。	季節を感じ気分が明るくなるような室内装飾を施しながら、温湿度や臭い、感染症の予防に注意を払っている。所々に置かれたソファでは利用者が周りの気配を感じながらうとうとしたり、段差のない畳スペースを通所利用者が横になれる休憩場所になっている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の畳スペースやソファ等を、利用者にあわせ使用できるようにし、自分の居場所として認知できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に、利用者自身の家族の写真や思い出の品、馴染みの物を置きながら安心して過ごせるように、家族の協力の下対応している。	床置きと吊り下げのタンス、洗面台、ベッドが備えてあり、使い慣れた家具や道具を自由に持ち込んでもらっている。室内の配置は動線に留意し、利用者の身体状況に合わせてセンサーを活用するなど、安全に暮らせるようにしている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	サービス計画を中心に、利用者個人々々「出来ること」「認知している事」を出来る限り把握し、利用者にあわせた安全な環境づくりを行っている。今年度は特に個々に合わせた特自立支援に向けたと取り組みに力を入れている。		